

備前市事務事業評価表

事務事業名	社会教育事業		コード	03-02-03-05
			担当課・係	生涯学習課
事業実施期間	昭和46年～		担当者	福山哲明
			電話	0869-64-1841
総合計画 事業（政策）体系	大項目(基本目標)	地域文化と人が輝くまちづくり		
	中項目(基本施策)	生きがいのあるまちづくり		
	小項目(施策)	成人教育		

事業について	
目的 (何のために)	すべての市民があらゆる機会や場を活用し、自らの実生活に即した幅広い学習活動ができる環境を醸成するための指針を検討する。
対象 (誰・何を対象に)	社会教育・生涯学習関係団体や熟年世代及び次世代を担う青少年等
内容	社会教育事業について、社会教育委員の会議に諮問するとともに委員からの提言を極力諸施策に反映させる。また、21世紀を担う中学生を対象に「人づくりシンポジウム」を開催

事業の結果			
実施項目	17年度 回数など (単位)	18年度 回数など (単位)	回数など (単位)
社会教育委員活動事業	3回	3回	
教育の日関連事業	769人	763人	
成人式運営事業	369人	364人	

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	3,748	国庫補助金等		直接事業費	3,800	国庫補助金等		直接事業費		国庫補助金等	
	人件費	6,500	受益者負担		人件費	7,400	受益者負担		人件費		受益者負担	
	合計	10,248	市債	10,248	合計	11,200	市債	11,200	合計	0	一般財源等	0

必要人員	0.65	0.70	人
結果指標	結果指標名	成人式参加者数	成人式参加者数
	結果指標量	369	364
	単位	人	人
	対前年比	-	98.64%
	活動にかかるコスト	1,107,000円	795,000円
	単位当たりコスト	3,000円	2,185円
結果指標	結果指標名	成人式の参加率	成人式の参加率
	結果指標量	75%	80%
	単位	%	%
	対前年比	-	106.93%
	活動にかかるコスト		
	単位当たりコスト		

事業の成果			
どのような成果を得ようとしているか	対象新成人全員の参加。(今後、新成人となった自覚が持てる事業内容を検討する必要がある)		
成果指標名	成人式参加者数	式又は説明	成人式参加者数 / 住民基本台帳対象者
	17年度	18年度	
成果指標量	0.75	0.8	
対前年比	-	106.67%	0.00%
到達目標値	0.95%	到達目標年度	平成20年度

(平成18年度事業)

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>	C	
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である 関係法令等： 文化財保護法	団塊世代が大量に退職する現状を踏まえ、本市における生涯学習社会の構築を図る必要があり、社会教育委員及び社会教育指導員等の有効な活用を検討する必要がある。	
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である		
	市民ニーズの妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である		
効率性の評価	市の関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である	効率性評価<A~E> C 課題認識	
	コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である		
	手段の最適化	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている		
有効性の評価	職場の効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい	人件費の削減はもとより、低コストで効率の高い事業実施に向けて検討が必要である	
	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している		有効性評価<A~E> C 課題認識
	成果向上の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある		
市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	「成人式」など慣例的な事業であり、教育部門での成果指標数項目については苦慮する。		

平成19年度状況	<input type="checkbox"/> 重点化している <input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している <input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している <input type="checkbox"/> 事業を縮小している	<input type="checkbox"/> 休止している <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している <input type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了	説明	対象者に成人式開催の目的等を理解してもらえよう実施したいと考えている。
目標値	結果指標量	450人	結果指標量	0.00802
	成果指標量		成果指標量	0.95

総合評価	成人式は1946年に埼玉県で行われた「青年祭」がルーツとなっており、1948年に公布・施行された祝日法により「大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます」趣旨で「成人の日」が設けられた。近時、新成人のホールでのマナー違反や会場への入館拒否等もあり、新成人にとっては同窓会程度の意識しかないのが現状である。	評価区分 <A~E> C
------	--	--------------------

平成20年度以降の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了
--------------	--	--	---------------------------------------

平成20年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
有効性	成人式の開催日及び内容について検討し、参加しやすい式典とする。	20年度	参加者の増加と開催趣旨が明確になる。